



宿南地区 総合運動会

9月15日(日)絶好の秋空の下開催されました。午前は小学校・こども園の運動会が元気はつたつに行われました。午後の部は、12時30分から鼓笛演奏で始まり、1時から地区民運動会が始まりました。チーム編成・チームカラー・競技内容も昨年同様で行われ白熱した競技に、おおいに盛り上がりました。八鹿青溪中学校ではインフルエンザの流行で出場が危ぶまれましたが当日は、中学生演技にも出場、放送案内も例年通り行っていただきました。ありがとうございました。

今年度の結果

- 優勝 川西・三谷・奥三谷チーム (2連覇)
- 準優勝 川東Bチーム
- 3位 門前・青山チーム

大変お疲れさまでした。



優勝チーム



準備体操



神奥だわっしょい



500mリレー



心をつなげ聖火リレー



一発必中



中学生演技



リム転がし



人工衛星



村日役



夏休み作品展

宿南小学校夏休み作品展を9月30日まで開催いたしました。

多くの方に御覧いただきました。



小学校 稲刈り

9月4日（水）営農組合指導で学校田のコウノトリ米の収穫を行いました。



クリーン作戦

9月8日（日）秋の但馬クリーン大作戦が行われました。小学生・中学生も参加し一緒に行いました。



川東B・門前交流ミニディ

9月11日（水）29人参加で宿南ふれあい倶楽部で開催しました。クイズやマジックショー、昼食後ビンゴゲームをし、楽しいひと時を過ごしました。



お知らせ

- 10月24日（木）議会報告会 19:30～
- 10月27日（日）村民号 尾道
- 10月27日（日）養父市総合防災訓練
- 11月17日（日）第63回宿南地区文化祭

草庵先生紹介



日記 13



青谿書院入り口
葵さん作

青谿書院は池田草庵自身の勉学の場であり、若者の学びの場であった。しかし、それだけではない。村人がやってきて、ひとときを過ごす場でもあった。

書院に引っ越して10日余り後の日記に次のようにある。

「検読5人、授読2人。講義は『史略』をする。吉村重助に手紙を書く。午前中に高柳の福田佐右衛門が来た。午後4時ごろ帰った。（中略）後ろの山を越えて片山（実家）に風呂に行く。帰院して、食事をしてから読書。村人が来る。しばらく対話。村人が帰って、それから就寝」（弘化4〈1847〉年6月21日）

書院に村人が来たことが書かれているのは、この日が最初である。この日以後、しばしば村人とか、一農夫とかと書かれている人たちがやってきて、草庵と対話したり、和やかな時を過ごしたりしている。

「村人が来てしばらく対話する」（弘化4年9月2日）「村人、絵の軸物を持ってきて一緒に愉しみ、しばらく話してから帰る」（嘉永5〈1852〉年12月8日）

「村人が来てだんらんし、夜通し小酌する。読書せず」（嘉永7〈1854〉年2月22日）

「村の客、数人ずつ次々とやってくる。昼時、少し酔って横になる。村人また目覚めた頃にやって来る」（嘉永7年3月3日）

書院が完成したとき、草庵はその感慨を「青谿書院遇題」という長い詩に書いている。その文末の方に、「（中国の）昔のすぐれた人たちは、世の中にあわないようだ、山に入り門を閉じて暮らした」と書いている。「門を閉じた暮らし」、それは世間から離れ、^{いんとう}隠遁的な生活をする事だ。草庵はそういう生き方にもひかれていた。

しかし、青谿書院の門は閉じられていたのではなく、開かれていた。村人をはじめとして、書院には次々と訪問者があった。草庵は日記に「来客があって、今日は読書が2、3ページしかできなかった」などと嘆きながらも、書院にやってくる人たちを迎えていた。

（提供 朝日新聞社）